



地域コミュニティ再考 - 地域福祉からのながめ - 1

深谷 誠一

広井良典教授(京都大学こころの未来研究センター)は、戦後の日本社会は、農村から都市に移った日本人が、独立した個人と個人のつながりを持つとせず、会社や家族という「都市の中のムラ社会」というべき閉鎖性の強いコミュニティを築いてきた。しかし現在では、そのような「関係性」を可能にした経済成長時代が終わりを告げ、個人の社会的孤立は深刻化している、と分析しています。

このような「個人の社会的孤立化」は、所属するコミュニティや集団の「ソト」の人との交流が少なく、「ウチとソト」との落差が大きくなるという歪んだ社会を形成してしまっています。これは、集団内では過剰なほど周囲に気を遣ったり同調的な行動が求められる反面、その集団を離れると誰も助けてくれる人がいないという状況を生み出し、それによって人々のストレスと不安を強め、孤立感による生きづらさ、閉塞感、孤独死、自殺者の増加などの根本的な要因になっています。

これを改善していくために、広井教授は『個人と

個人がつながる』ような、『都市型コミュニティ』ないし関係性というものをいかに作っていくか、という点に集約されると述べています。それでは、いかにして個人と個人がつながるようなコミュニティを構築していく方法があるのでしょうか。

社会福祉の分野で「コミュニティケア」という考えがあります。特別な施設の中だけで処遇するのではなく、できるだけ地域の中で地域とのつながりを保ちながら処遇する、すなわち居宅においてケアを行い、地域との関係性を再構築していくものと考えられています。それは地域福祉からコミュニティを考える、という側面です。地域福祉には、福祉の支援を必要としている当事者やその家族、行政、福祉関連の専門家や従事者だけではなく、地域の住民が参加していくことが重要です。それはお任せの福祉行政から脱して、様々な人たちが福祉の支援を受ける側や支援をする側になることを前提とした考え方です。

会員募集

緑の党グリーンズジャパン入会案内

一緒に「緑の党」をつくりましょう！あなたの力を貸してください。会員・サポーターになって・・・

- ニュースレターで緑の党の動きをキャッチ！
- 地域の集まりやメーリングリストで情報や意見を交換しましょう！
- イベントやアクションに参加しましょう！

◆事務局◆
〒165-0026
東京都中野区新井 2-7-10 サンファスト 301
TEL:03-5364-9010 (火～金 12:00～18:00)
FAX:03-3389-0636
メールでのお問い合わせ・greens@greens.gr.jp

<http://greens.gr.jp/>

グリーンズいばらきは、 緑の党グリーンズジャパン茨城県本部の準備会です

グリーンズいばらき・ニュースレター 1号
2018年7月20日発行
発行人/代表世話人 野口 修

<事務局>
〒301-0043 茨城県龍ヶ崎市
松葉 5-5-11 「企画室あい気付」

TEL: 090-3232-0214 (披田)
mail: s.hida@jcom.home.ne.jp

<http://greens-ibaraki.jimdo.com/>



グリーンズいばらき

緑の党グリーンズジャパン茨城県本部準備会

ニューズペーパー 創刊号

2018年7月20日

vol.1

参加民主主義で行こう！ 東海第二原発再稼働の是非を問う県民投票について

政治をどのように進めていくか。それは大きな政治と小さな政治では進め方が違うと思いますが、政治に市民がいかに参加していくかということは重要で、そのことが政治・民主主義を育むと考えます。

緑の党は「熟議と当事者主権にもとづく参加民主主義を実現する」そして、「情報公開を徹底し、市民が行政を監視し、重要な事柄は住民投票や国民投票によって決定できるようにします。」という社会ビジョンを掲げています。政治に参加する方法の一つとして、住民投票を挙げています。

自治体で条例を施行し住民投票を行うところがあります。また事案が政治的にも大きな争点になった場合は、住民が直接請求をすることができます。つくば市では運動公園の是非を、住民投票で止めました。龍ヶ崎市「常磐線佐貫駅名改称事業の賛否」、鉾田市「市民交流館整備計画の賛否」、水戸市「新・水戸市民会館計画の賛否」は、いずれも議会で否決されましたが、住民が意思決定に参加して行く動きが顕著に見えています。結果も大事ですが、住民が自ら動き出したことが、さらに大切のように思います。

原発の再稼働についても、新潟県や静岡県等で住民投票が行われました。結果は議会で否決されていますが、再稼働の動きを止めたと言えます。

原発のような命や国策に関わる問題を住民投票で決めるのには反対だという意見があります。一般の市民は、政策を深く考えられないので、結果が正しいとは限らないということのようです。

鶴見俊輔氏は、9条の国民投票を避けようとする動きに対して「負けは避けたい、常に勝ちたいという考え方は、人間の思想を低くします。国民主権があるのなら、国民投票を実現すべきです。九条撤廃への反対が多数ならば、それはとてもめでたいことです。しかし、もし負けるならば、その日本国民の実情を、世界の歴史にさらす勇気を持ちたいと思います。」と言いました。

ここで、「人間の思想を低くします」というのはどういうことでしょうか。熟議を避けて通るということのように思います。茨城県は原発立地の当事者です。再可動の是非について一人ひとりが考え県民総意で決定していくということは、当たり前の行動です。もし現実がそうでないのであれば、そのような現実に対して避けて通ること「人間の思想を低くします」ということではないでしょうか。2018年11月28日に40年を迎える東海第二原発は、県民の意思表示で是非を決める動きがあります。その動きに賛同し行動を起こしましょう。

野口修

グローバル・グリーンズ憲章の6つの理念



エコロジカルな知恵



社会的公正・正義



参加民主主義



非暴力・平和



持続可能性



多様性の尊重